

1 運 営

1・1 沿革・組織機構

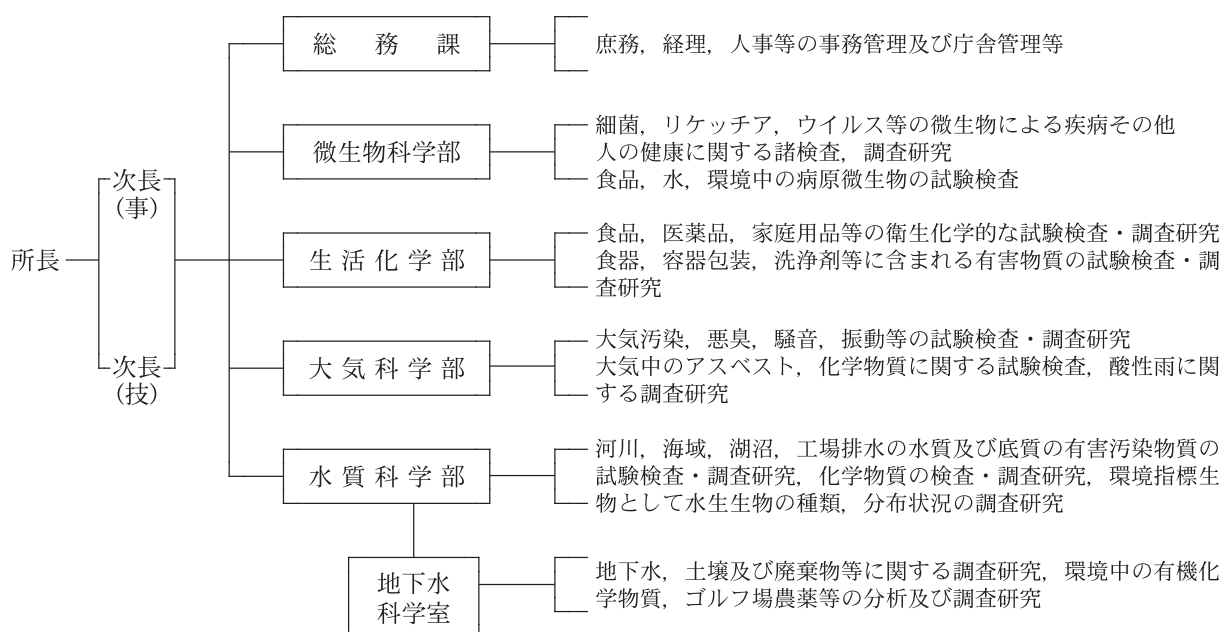
昭和23年12月 地方衛生研究所設置要綱に基づき、衛生試験所と細菌検査所を統合して熊本市に熊本県衛生研究所を設置

45年 7月 研究所に公害部を増設

46年 9月 研究所名を熊本県衛生公害研究所と改称

51年 7月 総務課、生物科学部、理化学部、大気部、水質部の1課4部体制に組織変更

平成 7年 4月 宇土市にRC3階建ての新研究所を竣工、名称を熊本県保健環境科学研究所と改称
各部の名称も改め、総務課、微生物科学部、生活化学部、大気科学部、水質科学部の1課4部に地下水科学室を水質科学部内に設置



1・2 職員の構成

(平成19年4月1日現在)

組 織	定 員 職 員 数							合 計
	事務吏員	技 術 吏 員					技能吏員	
		医 師	獣 医 師	薬 剤 師	理工系技師	小 計		
所 長		1				1		1
次 長	1				1	1		2
総 務 課	4						1	5
微生物科学部			2	3		5		5
生活化学部				5	2	7		7
大気科学部				2	3	5		5
水質科学部				1	4	5		5
地下水科学室				3	2	5		5
合 計	5	1	2	14	12	29	1	35

1・3 職員一覧表, 人事異動等

(1) 職員一覧表

(平成19年4月1日現在)

職		氏 名	職		氏 名
所 長 (技)		藤 田 稔	大 気 科 学 部	研 究 主 幹 (大 気 科 学 部 長)	上 野 一 憲
次 長 (事)		小 島 泰 則		研 究 参 事	北 岡 宏 道
保 健 環 境 審 議 員 (技) (次 長)		村 山 力		技 師	北 緒 黒 木 隆 依 松 本 依 子
総 務 課	総 務 課 長	濱 下 重 敏	水 質 科 学 部	研 究 主 幹 (水 質 科 学 部 長)	小 笹 康 人
	参 事	古 森 良 子		研 究 参 事	松 崎 達 哉
	主 任 主 事	藤 森 英 基		主 任 技 師	出 納 由 美 子
	技 師	村 上 理 恵 平 川 和 徳		技 師	小 谷 林 口 智 正 則
微 生 物 科 学 部	研 究 主 幹 (微 生 物 科 学 部 長)	中 島 龍 一	地 下 水 科 学 室	研 究 主 幹 (地 下 水 科 学 室 長)	今 村 修
	研 究 参 事	宮 坂 次 郎		研 究 参 事	森 山 秀 樹
	技 師	原 田 誠 也 松 尾 繁 輔 八 尋 俊 輔		主 任 技 師	木 庭 亮 宏 福 島 尚 暢 己
生 活 化 学 部	研 究 主 幹 (生 活 化 学 部 長)	飛 野 敏 明			
	研 究 参 事	和 久 田 俊 裕			
	技 師	村 川 弘 士			
	主 任 技 師	荒 木 誠 士			
	技 師	野 田 茂 城 藤 田 一 城 福 島 孝 兵			

(2) 人事異動

転入 H19. 4. 1

村 山 力 (環境保全課)
藤 田 一 城 (八代地域振興局)
村 上 理 恵 (高齢者支援総室)
小 林 頼 正 (環境保全課環境立県推進室)

転出 H19. 3. 31

古 庄 眞 喜 (環境保全課)
柏 木 裕 美 (秘書課)
西 名 武 士 (天草地域振興局)
永 田 武 史 (環境保全課)

(3) 平成18年度被表彰者

研究主幹 小 笹 康 人 全国環境研協議会会長表彰
研究主幹 今 村 修 全国環境研協議会九州支部表彰

1・4 平成18年度決算額

(1) 収 入

(単位 千円)

節	件 数	収 入 額	備 考
保 健 所 使 用 料	3	45	敷地使用料
衛 生 試 験 手 数 料	68	341	熊本県手数料条例
雇 用 保 険 料 徴 収 金	12	75	雇用保険料等徴収金
雑 入	5	109	電気代
計	88	570	

(2) 支 出

(単位 千円)

	人件費	報 酬	共済費	賃 金	報償費	旅 費	需用費	役務費	委託料	使用料 及び 賃借料	備 品 購入費	負担金 補助 及び 交付金	公課費	計
人 事 管 理 費						16								16
公衆衛生総務費						252	803	70						1,125
予 防 費						599	3,556	40						4,195
保健環境科学 研 究 所 費	255,261		33,444	2,385	32	1,281	30,415	637	20,715	2,671	1,733	182	38	348,794
食品衛生指導費						677	14,598	20		5,593				20,888
生活衛生指導費							383							383
公 害 対 策 費			92	286		88	28							494
公 害 規 制 費			443	3,615	35	1,938	13,618	140		18	2,055			21,862
環 境 整 備 費						439	1,547	16						2,002
業 務 費						167	650							817
農 業 総 務 費		3,128	391				200							3,719
植 物 防 疫 費							7,000							7,000
畜 産 振 興 費							177							177
家畜保健衛生費							200							200
林業振興指導費							300							300
森林病害駆除費							300	40						340
造 林 費						120								120
水産業振興費							400							400
保健学院運営費						3								3
計	255,261	3,128	34,370	6,286	67	5,580	74,175	963	20,715	8,282	3,788	182	38	412,835

1・5 施設及び主要備品

(1) 施設		(単位 m ²)
敷地		23,271.54
庁舎概要		
本館	鉄筋コンクリート造3階建(平成7年2月20日)	5,436.08
1F	総務課 微生物科学部 テレメーター室	1,880.82
2F	生活化学部 大気科学部 会議室 講堂	1,735.38
3F	水質科学部 地下水科学室 図書室 教養室	1,735.38
RF		84.50
排水処理室	鉄筋コンクリート造	9.90
車庫	鉄骨造	113.14
動物舎	鉄筋コンクリート造	158.40
危険物等倉庫	鉄筋コンクリート造・一部鉄骨造	50.00
	計	5,767.52

施設の建物別面積

(単位 m²)

区分	面積	備考
管理部門	109.20	
研修部門	230.50	図書室 61.0 会議室 講堂 149.2 教養室 20.3
技術部門	4,316.96	
倉庫	326.64	
ボイラー・機械室等	316.80	
その他・共通部門	135.98	
小計	5,436.08	
その他	排水処理室	9.90
	車庫	113.14
	動物舎	158.40
	危険物等倉庫	50.00
計	5,767.52	

(2) 主要備品

(注：300万円以上の機器を掲載)

品名	規格	購入年月
大型特殊自動車(大気環境測定)	いすゞU-FRD32HB	H 3. 12
DNA合成装置	日本パーセプティブリミテッド MODEL8905	H 7. 3
悪臭物質分析装置	TEKMAR LSC-2000	H 5. 7
煙道排ガス分析装置	濁川理化工業 NG-Z-6D	H 6. 3
記録計	小笠原計器C-U273	H 5. 2
気象観測装置	小笠原計器製作所	H 7. 3
クロマトグラフ	島津 GC-15APE	S63. 12
クロマトグラフ	柳本 G6800CSL-EC(W)	H 4. 8
クロマトグラフ	島津 GC-17AAF	H 5. 7
クロマトグラフ	島津 LC-10AD	H 5. 7
クロマトグラフ	島津 SPD-M10A	H 7. 3
クロマトグラフ	島津 LC10A	H 7. 8
クロマトグラフ	島津 GC-14AAF V2	H 8. 3
クロマトグラフ	島津 GC-14BPF	H 8. 3
クロマトグラフ	横河 HP6890	H 9. 8
クロマトグラフ	横河 HP6890	H10. 9
クロマトグラフ	日本電子 JMS-600WS	H10. 11
クロマトグラフ	ダイオネクス DX-500	H11. 10
クロマトグラフ	島津 GC-2010	H13. 3
クロマトグラフ	AGILENT1100SL(LC/MSDシステム)	H13. 9
クロマトグラフ	ダイオネクス DX-500	H14. 9
クロマトグラフ	Agilent Technologies社製 5973inert MSD	H16. 3
クロマトグラフ	島津 GCMS-QP2010	H16. 10
クロマトグラフ	島津 PROMINENCE	H17. 9
クロマトグラフ関連機器	ウォーターズ Sep-Pakコンセントレータ	H10. 7
クロマトグラフ関連機器	島津 GC-2010A	H13. 3
重金属処理機器	マイルストーンゼネラル社 ETHOS TC	H14. 9
重油硫黄量測定装置	理学電気 サルファーX 3670TA	H11. 1
試験器(リアルタイムPCR装置)	ロシュ・ダイアグノスティクス社 LightCycler DX400	H16. 9
水銀分析装置	杉山元 2537	H 2. 3
水銀分析装置	日本インスツルメンツ マーキュリーWA-3	H12. 3
水質分析計(オートアナライザー)	ブランルーベ社 AACs-II型	H 7. 3
水質分析計(オートアナライザー)	ビーエルテック社 SWAAT5CH型	H18. 12
水質測定装置	YSI model 6920	H11. 8
測定器	日本インスツルメンツAM-2	H 5. 2
電気泳動装置	大塚電子 CAPI-3200	H 9. 3
電気泳動装置	日本バイオイメージ Gel Print 2000i	H10. 1
濃度計(全有機炭素計)	島津TOC-500	H 7. 3
分光光度計(原子吸光光度計)	日本ジャーレルアッシュ AA-8500 MARKII	H 1. 1
分光光度計	モレキュラデバイス社 M-VMAX	H 5. 8
分光光度計	日本分光 V-560D	H11. 8
分光光度計	島津製作所 AA-6800	H17. 10
分光分析装置	AGILENT7500ce	H17. 11
顕微鏡(蛍光)	ニコン VFD-TR	S58. 11
顕微鏡(電子顕微鏡)	日本電子 JEM-1210 JSM-5410	H 7. 3
安全キャビネット	日立冷熱 SCV1303ECII B	S63. 3
ガス分析計	テストターム test033	H 7. 3
遠心分離機	ベックマン オプティマ L-70	H 4. 7
恒温恒湿ユニット	タバイエスベック TBR-3HG	H 7. 3

1・6 学会・研修等

(1) 職員が出席した主要な学会・研究会等

年 月	名 称	場 所	氏 名
18年5月	C型共同研究「日本における光化学オキシダント等の挙動解明に関する研究」平成18年度第1回研究会	京 都 市	上野
5月	日本地下水学会2006年春季講演会	東 京 都	松本 (尚)
6月	衛生微生物技術協議会第27回研究会	札 幌 市	藤田・宮坂・原田
9月	第4回カキ安心フォーラム	志 摩 市	原田
9月	第47回大気環境学会年会	東 京 都	北岡
9月	第27回日本食品微生物学会学術総会	堺 市	中島
10月	C型共同研究「日本における光化学オキシダント等の挙動解明に関する研究」平成18年度第2回研究会	つくば市	上野
10月	第32回九州衛生環境技術協議会*	北九州市	古庄・宮坂・原田・飛野・ 和久田・西名・北岡・松崎・ 永田・松本 (尚)
10月	第65回日本公衆衛生学会総会	富 山 市	藤田
10月	日本地下水学会2006年秋季講演会	倉 敷 市	森山・谷口
10月	第43回全国衛生技術協議会年会	米 子 市	飛野・和久田・福島 (孝)
10月	日本獣医師三学会九州地区大会*	熊 本 市	宮坂
11月	第33回環境保全・公害防止研究発表会	新 潟 市	松崎
11月	第17回廃棄物学会研究発表会	北九州市	木庭
11月	第29回日本農薬学会農薬残留分析研究会	大 阪 市	村川・荒木
11月	第40回腸炎ビブリオシンポジウム*	東 京 都	宮坂・八尋
12月	第48回環境放射能調査研究成果発表会	東 京 都	北岡・緒方
12月	第16回環境地質学シンポジウム	東 京 都	森山
19年1月	化学物質環境実態調査環境科学セミナー	東 京 都	福島 (宏)・黒木
1月	大気環境学会九州支部第7回研究発表会	福 岡 市	緒方・松本 (依)
1月	第28回全国都市清掃研究・事例発表会	川 口 市	松本 (尚)
2月	廃棄物研究発表会	東 京 都	木庭
2月	日本獣医師三学会年次大会*	さいたま市	宮坂
3月	環境大気モニタリングに関する研究会	東 京 都	松本 (依)
3月	平成18年度放射能分析確認調査技術検討会	東 京 都	北岡・緒方
3月	第41回日本水環境学会年会	大 阪 市	小笹・永田・福島 (宏)
3月	第80回日本細菌学会	大 阪 市	原田

* 職員が発表した会

(2) 出席した技術研修等

年 月	名 称	場 所	氏 名
18年6月	「温泉の泉質等に対応した適切な衛生管理手法の開発」に係る研修会	東 京 都	宮坂
6月	第2回オートアナライザーシンポジウム	大 阪 市	出納
6月	マリントキシン分析技術研修	那 覇 市	福島 (孝)
6月	環境放射能分析研修 (Ge半導体検出器による測定法)	千 葉 市	黒木
7月	平成18年度放射能取扱主任者定期講習会	福 岡 市	野田
6月	平成18年度化学物質調査分析法講習会	東 京 都	黒木・福島 (宏)
7月	臭気指数規制ガイドライン等地方公共団体説明会及び嗅覚測定技術研修	福 岡 市	黒木
9月	特定機器分析研修 I (ICP/MS) (第2回)	所 沢 市	永田
9月	環境汚染有機化学物質 (POPs 等) 分析研修	所 沢 市	黒木
10月	第17回HIV検査法 (PCR法等) 技術研修	武蔵村山市	松尾
10月	VOCs 分析研修 (水質) (第2回)	所 沢 市	福島 (宏)
10月	石綿測定技術者研修	横 浜 市	松本 (依)
11月	廃棄物分析研修	所 沢 市	松本 (尚)
11月	国立保健医療科学院特定研修「新興再興感染症技術者研修」	武蔵村山市	八尋
11月	流行予測事業日本脳炎感受性調査に係る検査法研修	東 京 都	原田
11月	全国自然毒研修会	姫 路 市	福島 (孝)
12月	平成18年度放射能取扱主任者定期講習会	福 岡 市	上野・小笹
19年1月	食品衛生検査施設における業務管理に関する研修	神 戸 市	八尋・福島 (孝)
2月	特定研修「水道クリプトスポリジウム試験法実習」	和 光 市	松本 (尚)
2月	希少感染症診断技術研修	東 京 都	松尾
2月	島津ハイスルーポットLCセミナー	豊 中 市	西名

(3) 所で行った発表・研修

年 月	対 象 者	人 員	期 間	研 修 内 容 等
18年6月	宇城市立松橋中学校生徒	4	1日	研究所の説明
6月～7月	熊本大学薬学部学生	101	1日	薬学体験学習
7月	J A阿蘇蘇陽中央支所各野菜生産部長他	17	1日	農産物残留農薬検査について
7月	宇土市・宇城市内中学校生徒	44	1日	一日研究所体験学習
8月	J A熊本市北部支所組合員	23	1日	食品の残留農薬検査について
10月	J I C A研修員	9	1日	業務概要説明
10月	菊池地方指導農業士連絡協議会会員	30	1日	食の安全安心対策について説明
11月	県関係機関職員・大学関係者・一般県民	74	1日	研究成果の発表会
19年1月	財団法人 北九州生活科学センター	1	3日	残留農薬分析について
2月	八代工業高等専門学校生徒	7	1日	環境 (大気・水質) 分析手法を学習
3月	J I C A研修員	9	3日	微生物科学部にて実習
3月	県庁勤務臨床 (衛生) 検査技師	26	1日	食中毒菌の分離・同定について

(4) 講師派遣

年 月	名 称	人 員	主 催	氏 名
18年4月	平成18年度各地域振興局等農業担当者会議	20	農林水産部	飛野
7月	海の子教室	29	熊本県環境センター	永田・出納・谷口
8月	エコロジスト・リーダー養成講座	17	熊本県環境センター	小笹・松崎・永田・出納・谷口
12月	平成18年度九州・沖縄地区残留農薬分析検討会	20	九州農政局	飛野
19年1月	地下水研修会	20	荒尾市	小笹・今村

1・7 調査研究に対する外部評価

当所の調査研究に対して、外部からの意見を聞きながら県民ニーズなどに合致した効率的で効果的な研究業務の遂行とその透明性の確保を目的に実施。

年 月	調 査 研 究 課 題	総合評価	コ メ ン ト
18年10月	食品中の残留農薬迅速分析法に関する研究（調査研究期間：H16～H17）	非常に高く評価できる	<ul style="list-style-type: none"> ・食品中に残存する可能性のある200種類以上の農薬の有無を一度に、かつ迅速に分析する手法を開発したことは、県民の食の安全・安心を守るというニーズに応える調査研究成果として非常に高く評価できる。 ・多成分農薬の一括迅速分析手法の成果を県内の民間分析機関へ広く周知し、分析技術レベルの向上に貢献している。 ・学術的にも評価できる内容であり、関係者へ広く周知するため学術誌への投稿を希望する。投稿に当たっては、投稿者の費用負担を出来るだけ軽減するため、投稿費は当研究所の予算で充当するのが望ましい。 ・調査研究成果の内容からして規定の予算以上の費用を要したことが予想される。実際の調査研究費用に見合った予算措置が執られることが望ましい。 ・農薬回収率が極端に悪い食品も存在するようであるが、その原因を究明すれば、開発された当分析手法の更なる発展と学術的な成果が期待できる。
18年10月	室内環境中の有害化学物質汚染調査（調査研究期間：H15～H17）	高く評価出来る	<ul style="list-style-type: none"> ・県民の関心が高いシックハウスの原因物質であるホルムアルデヒドやアセトアルデヒドの室内環境中の存在状況を明らかにしたことは高く評価できる。 ・シックハウス原因物質といわれている、上記2物質以外の項目の室内環境中の存在状況についても調査を実施し、県の保健環境分野の中核的な研究機関としての当研究所の役割を果たして欲しい。 ・民間の分析機関もシックハウス関連項目の分析はかなりやっている。保健所を通じての行政依頼試験等特殊な場合を除いて民間分析機関の活用が望まれる。 ・学術的意義や技術開発の寄与度、今後の発展性からみるとこのような調査は、民間でも可能ではないかと思われ、研究的な意味からすると、内容・意義が少し薄いような気がする。

※成果評価：調査研究の事業終了後に、研究目的の達成状況、行政施策等への寄与度及び県民ニーズへの波及等を評価

1・8 購入雑誌

邦 書

臨床と微生物 (隔月刊)
JOURNAL OF HEALTH SCIENCE (隔月刊)
科学技術文献速報 環境公害編CD-ROM版 (隔月刊)
火山 (隔月刊)
環境と測定技術 (月刊)
環境技術 (月刊)
資源環境対策 (月刊)
下水道協会誌 (月刊)
水処理技術 (月刊)
用水と廃水 (月刊)
地下水学会誌 (4回/年)
廃棄物学会誌 (隔月刊)
水環境学会誌 (月刊)
大気環境学会誌 (隔月刊)
水道協会雑誌 (月刊)
日本食品化学学会誌 (隔月刊)
食品衛生学雑誌 (隔月刊)
陸水学雑誌 (3回/年)
日本医事新報 (週刊)

洋 書

The Journal of Infectious Diseases (24回/年)
Journal of Clinical Microbiology (月刊)
Journal of AOAC International (隔月刊)
Analytical Chemistry (24回/年)
Environmental Science and Technology (24回/年)
Water Research (不定期)
Water Science & Technology (不定期)
Water21 (隔月刊)